

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 准教授・渡邊浩一2. 学位 学位 人間・環境学、専門分野 哲学、授与機関 京都大学、授与年 2011年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 哲学（2単位）	主たる配当年次等 1・2・3
②内容・ねらい 哲学について特段の予備知識がなく、また今後専攻するわけでもない（とくに1・2年次）の各学部学生に対して、世界と人間をめぐるさまざまな問いに即して実際に「哲学する」場を提供するとともに、全体として哲学の領域の広がりを感じさせることを意図して、教室空間・課題・全体の内容を構成している。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回の予習課題・授業課題として、学生の思考を誘発するような「問題」を提示し、個人またはグループで取り組ませ、取り組み内容については授業内で丁寧にフィードバックを行っている。また期末レポート課題の説明・評価にあたっては、評価用ルーブリックを作成・配布するとともに、授業課題を通じてその下準備にあたらせている。	
①担当科目名（単位数） 倫理学（2単位）	主たる配当年次等 1・2・3
②内容・ねらい 学生がそれぞれ自身の持ち合わせている価値観・規範意識への気づきを得ることができるよう、アリストテレス以来の倫理学の基礎理論と現代社会のさまざまな問題を順次とりあげながら、毎回参加者がモラル・ジレンマに直面するような各種課題を提示し、究極的には「よく生きる」ことの意義の受け取り直しに資するよう、教室空間・課題・全体の内容を構成している。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 内容面では倫理学の基礎理論と現代社会の諸問題をバランスよく配置するよう心がけている。学生に「自ら考えさせる」ような問い・課題を提示するとともに、その取り組み内容を参加者間で共有し吟味するという点は、上記「哲学」に通じる。期末レポート課題の説明・評価に関しても同様。 なお今年度（後期）は急遽、AOSSA 科目としても提供することになり、ハイフレックス方式に変更した（他大学履修者2名）。	
①担当科目名（単位数） 西洋思想（2単位）	主たる配当年次等 1・2・3
②内容・ねらい 自由人の学芸（リベラルアーツ）は、西洋の大学の基礎教育課程を成すものであり、内容面では「自由」を根幹とする西洋の人間観・学問観をよく体現するものと言えるが、言葉として用いられるほど実際には知られていない。そこでこの授業では、古典的リベラルアーツの理念・カリキュラムの内実を有力なテキストに即してつぶさに確認することを試みている。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 上記「倫理学」にも通じるが、スライドと資料に即した説明を学生がそれぞれ工夫してノー	

トテイクすることを課題として位置づけた。説明に際して中心となるのは自由七科のテキストであるが、その社会的・歴史的ふくらみを体感できるよう、視聴覚資料も可能な限り併用することを心がけている。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
現代人権論 (2単位) 1・2・3 *オムニバスのうちの1回

②内容・ねらい

現代の人権問題として、香港やミャンマーの直近の事例を入口に、「抵抗権」をとりあげた。今年度は学期序盤の担当回となったため、各種の基本的な人権の紹介から始め、そのうえで近代の人権思想史を踏まえつつ、そもそも「権利」「人権」とは何であるかをその限界事例にあたる抵抗権を通じて考えさせることを心がけた。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

メインテーマが権利・人権についての原理的考察であり、抽象度が高いため、導入部分では具体的な事例を紹介し、予習課題・授業課題とも学生にとって自分事と感じられるような内容を意識して設定した。課題はグループワーク形式で行い、グループごとの議論の内容を板書させ、教室全体で共有することを試みた。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
導入ゼミ (2単位) 1

②内容・ねらい

「身にする読書」と題して、新書(廣野由美子『批評理論入門』)を教科書指定し、参加者それぞれが担当章について①レジュメないしスライドづくり、②狙いをもった文章作成、③レジュメ・作文に即した議論を行えるよう内容を構成した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

昨年度(着任初年)の取り組みを踏まえつつ、改めてできるだけ早い段階での「大学生としての独り立ち」をテーマに、少し難度の高い文献購読に関わる課題に取り組みさせた。上記①の発表に対しては、参加者からのコメント内容をそれぞれがA4一枚程度にまとめ、それを踏まえて教員と個別に面談する形でフィードバックを行った。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
教養ゼミ (2単位) 1

②内容・ねらい

「雑誌をつくる」と題して、①他者と協働して一冊の「雑誌」のコンセプトをまとめること、②全体のコンセプトと自分の関心とに照らして「記事」を作成すること、③上記①②を踏まえた編集・頒布作業ができること、を狙いとした授業内容となっている。(昨年度の「学会と雑誌をつくる？」から、学生の実状・ニーズに合わせて改訂。)

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

昨年度の履修者は少人数(5名)だったが、今年度は50名超の大所帯となったため、半ば講義形式をとりつつも、グループでの記事づくりをサポートに努めている。学生はそれぞれの関心に応じて取材、アンケート実施、写真撮影、文章執筆を行うが、その参考となるよう、昨年度見学に赴いた県内のタウン誌『月刊URALLA』編集部の編集長・宮田耕輔氏に講演をお願いした(第7回)。

【ゲストスピーカー 1人】

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
学術ゼミ (2単位) 2・3・4

* 報告書提出時点では学期中

②内容・ねらい

参加者間で相談の上、広く哲学・思想に関わる古典的名著を各学期1冊選択し、講読・精読する。講読にあたって学生は事前にテキストに目を通し、授業の場で自身の見解を述べるとともに、参加者間で議論し、読解を深め、考えを練り上げていけるようになることがねらいである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

前期はマルサス『人口論』（履修者7名）、後期はデカルト『情念論』（履修者13名）を講読することとなった。受講生は、哲学書はもちろん、そもそも読書経験があまりないため、書籍は専門用語など前提知識をそれほど要しないものをあらかじめ選定し、また講読にあたっては学生の経験・意見とテキストの接点が見つかるような発問を心がけている。

なお、後期は前期からの継続履修者の要望もあり、より少人数での講読を行うべくサブクラスを設定した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

教養特講Ⅰ（研究の世界）（2単位） 1・2・3 *オムニバスのうちの1回

②内容・ねらい

学術教養センターの教員がそれぞれの研究テーマについて語るオムニバス授業のうち1回（第7回）において、「自由学芸（リベラルアーツ）事始」というタイトルで自身の教育研究の関心の変遷を語った。現在の関心がリベラルアーツにあるため、結果として、大学の一般教育科目の歴史を概説し、その意義について学生自身に考えさせるような組み立てとなっている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

現状、一般教育カリキュラムの歴史や意義について詳説する正課科目がないことから、情報量は多くなるが、大学やリベラルアーツの歴史をできるだけ丁寧に紹介することを心がけた。また、同時に、参加者がそれぞれ自身の大学での学びと結びつけて考えられるような授業課題を設定した。

(2)その他の教育活動

内容

藤島高校「地歴公民科授業研究会 兼 公開講座（生徒対象）「カントと功利主義」

2月1日（水）16時10分～17時10分（予定）

丸岡高校「第1学年 学校設定教科「みらい」選択講座」

2月6日（月）・17日（金）15時30分～16時30分（予定）

*「5. 地域・社会貢献活動」にも記載

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書 崎山直樹・二宮祐・ <u>渡邊浩一</u> [編]『現場の大学論』、ナカニシヤ出版、2022年	【1本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	【0件】
⑤その他の公表実績 北村知之・ <u>渡邊浩一</u> 「[学術資料] 福井県立大学の教養教育略史」、『福井県立大学論集』第58号、35-52、2022年	【1本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
日本18世紀学会 『啓蒙思想の百科事典』編集委員（2021年2月～） 日本18世紀学会 ハラスメント相談担当委員（2021年6月～）	

5. 地域・社会貢献活動

⑥高校生向けの講座

藤島高校「地歴公民科授業研究会 兼 公開講座（生徒対象）「カントと功利主義」

2月1日（水）16時10分～17時10分（予定）

丸岡高校「学校設定教科「みらい」選択講座 「カントと功利主義」

2月6日（月）・17日（金）15時30分～16時30分（予定）

* 「3. 教育活動」にも記載

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

[全学]

大学案内 2024 ワーキンググループ

[学術教養センター]

予算委員

海洋一年生支援担当

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など